

# 全学連 国際部通信

Sep. 28, 2015 No. 11



## ◆全学連と日本共産党との政治的な差異は、具体的にはどのような点ですか？

日本共産党はあらゆるところに旗をもって登場しますが、彼らは決して職場やキャンパスでは姿を見せません。わたしたちがともに闘う戦闘的な労働組合・動労千葉の仲間は職場で労働者と討論し、ビラをまき、ストライキやデモに労働者を結集させます。しかし、共産党はほとんどやりません。彼らの議員は国会では雄弁ですが、職場の闘いには知らんぷりです。闘う意思も、この社会を本当に変革しようという思いももっていないのが日本共産党です。

## ◆ドイツには政治に関心をもつ人びとがたくさんいますが、そうした人たちにさえ、日本で今に至るまで活動的・戦闘的な左翼運動が闘われていることは知られていません。ドイツの労働者や学生が、そうしたキャンパスや職場での闘いを支援するためにできることはなんのでしょうか？

ドイツのみなさんもストライキを組織し、資本主義・帝国主義に対してともに闘いましょう！ 私たちと同じように生産点から革命的な労働運動・学生運動を甦らせるため、闘うことを訴えます。そのような国際連帯こそが最大の支援になります！

### 【出典】

○"Junge Welt" 記事（ドイツ語のみ、短縮版）

<https://www.jungewelt.de/2015/08-08/003.php?sstr=zengakuren>

○インタビューであるミヒヤエル・ストライトベルクさんのブログ  
（ドイツ語・英語、オリジナル版）

<http://tanukirepublic.net/2015/09/13/interview-ikuma-saito/>

★オリジナル版（全文）の和訳は全学連ウェブサイトに掲載しています♪

<http://www.zengakuren.jp/wp/?cat=11>

労働者・学生が団結して闘いにたちあがれば、世界をまるごと変革することができる！ 日々全世界でまきおこる闘いは、そのことをはっきりと示しています。この通信は、そうした闘いにスポットをあてるのみならず、実際の交流をも通して、日本での自分たち全学連の闘いの方向性を鮮明にし、大きな闘いをつくりあげるためのものです。留学生をはじめ、さまざまな大学の仲間とともにこの通信をつくってゆきたいと思います。投稿も随時募集しています！

安倍政権に対する国会決戦の爆発に引き続き、9月23日、韓国・民主労総の労働者たちが今年3回目となるゼネラルストライキにたちあがりました！

このゼネストは、パク・クネ政権による「労働市場改革」＝解雇自由化と労働者全体への賃下げ、「一生非正規職」攻撃への反撃として闘われました。



## 9・23 民主労総が5万人ゼネスト！

今や文字どおり「生きるか死ぬか」という状況下に叩きこまれている労働者の怒りは激しく、緊急の闘争にもかかわらず5万人以上が全国でストライキを決行。警察の暴力的弾圧をはね返し、街頭で闘いぬきました。

11月14日には「集まろうソウルへ！

行こう青瓦台へ！ ひっくり返そう世の中を！」をスローガンに、農民や露天商、学生などあらゆる人びとが民主労総とともにたちあがる「民衆総決起闘争」がよびかけられています。この闘いとかたく連帯し、「1%」の資本家の支配を覆して戦争を止めましょう！

## Join us, please!

### ☆みんなで作業しよう！（翻訳など）

闘いの報告や声明、資料などの翻訳・発信等に、ぜひご協力を！

### ☆学習会をはじめよう！

メンバーの問題意識にあわせて行っていけたらと考えています♪

ex. 世界各国での学生の闘い、入管問題など



発行：全学連（全日本学生自治会総連合）国際部

Tel：090-1845-7062（うちだ） / Mail：intl-solidarity@hotmail.co.jp

## 11・1 全国労働者総決起集会

11月1日（日）12時 日比谷野外音楽堂にて（終了後デモ）

★韓国、アメリカ、ドイツ、さらにトルコからも闘う労働者が

国会決戦のさなかの7月1日、斉藤郁真全学連委員長がドイツのジャーナリストのかたからうけたインタビューが8月8日、ドイツの左派日刊紙“Junge Welt”に掲載されました。そのうちの一部を抜粋してご紹介します。

## »Wir widersetzen uns den kommenden Kriegen«

### Gespräch mit Ikuma Saito. Über studentische Kämpfe an japanischen Hochschulen, den militaristischen Kurs der Regierung Abe und Spaltungen der Linken

#### 【きたる戦争に反対する】

斉藤郁真氏へのインタビュー

—日本の大学における学生の闘い、安倍政権の戦争政策、そして左翼運動の分裂について

◆この数ヶ月、多くの大学で政治的な抗議行動やデモがまきおこっています。その一方で、警察による学生への弾圧も行われています。何に抗議する運動なのですか？

いま、安倍政権が衆議院で強行採決を狙う新たな安保法案に対する怒りが全社会に満ちています。この法は、自衛隊を海外に派遣することを可能にするものです。政府はまた、大幅な憲法の改悪も計画していますが、これは日本を完全に戦争のできる国にするためのものです。憲法9条によって日本は平和を守るよう義務づけられており、兵力の保持は認められていないにもかかわらずです。

しかしながら、こうして眼前で進行している事態について学生がキャンパスで反対の声をあげたり、政治的な討論をしたりすることは認められていないのが実情です。例えば、大学で政治的なビラをまくことは禁止されているのです。それでもますます多くの人びとが、もはや黙ってはいられないと声をあげ始めています。

◆東京にある私立大・法政大学では、大きな学生の闘いが何年にもわたって続けられています。この闘いも、学内の民主主義や学生自治を問うものなのですか？

全学連は2006年から法政大学で闘ってきました。それ以降政治的な学生と大学当局との対立が強まり、多くの学生にたいする逮捕や数ヶ月間にわたる拘置所への勾留が行われてきたのです。それらの攻撃はキャンパスで集会を開いたり、政治的なビラをまいたり、あるいは2008年に開催された洞爺湖サミット、そして文化連盟の



行動は経営に悪影響をもたらすからです。

大学当局は学生たちに、全学連やともに闘うサークル団体である文化連盟の活動に「巻きこまれないように」と警告してきました。現総長である田中優子氏は日ごろ出演しているテレビ番組では、安倍や憲法改悪を批判しているにもかかわらず、自らの大学の学生の闘いには敵対しているありさまです。勾留をはね返し、裁判で無罪を勝ちとった活動家たちもいますが、この闘いは決して終わっていません。

◆最近、京都大学をはじめとしたほかの大学キャンパスにおいても抗議行動や警察との激突がおこっていますね。この運動は、全国に広がり始めているのですか？

はい。そもそも、法大闘争は孤立した闘いとしておこったものではなく、当初から全国の多くの大学の学生が自らの闘いとして担い、支援してきた闘いなのです。2006年に逮捕された29人のなかにも、他大学の学生が含まれていました。

◆全学連はこれらの闘いでどのような役割を果たしているのですか？ 政治的な目標はなんですか？

先に述べた新たな安保法案は、大学における軍事研究の再開と一体のものです。現情勢のもとでの最重要テーマは、こうした軍事研究に反対することです。わたしたちは、学生を戦争に動員しようとするいかなる試みにたいしても闘います。

◆大学が、政府の戦争政策や（事実上の）「日本軍」設立に手を貸しているということでしょうか？

まさにそのとおりです。2年前に安倍政権は、産官学共同を促進するという閣議決定を行いました。当初から、そうした産官学共同のプロジェクトの一部だけで20億円もの予算が注ぎこまれ、総額はあつという間に60億円にまで膨れあがろうとしています。さらに今や、米軍と共同研究を行っている大学もあります。



メンバーへの不当処分反対のデモを行った学生にたいして加えられてきました。

こうした活動は大学当局によって厳しく禁止されてきました。学生自治は奪われ、おこっていることに公然と批判できないようにさせられてきたのです。私立である法政大学は大企業のように経営されており、政治的な抗議行動

# 全学連 国際部通信

Sep. 28, 2015 No. 11



## ◆全学連と日本共産党との政治的な差異は、具体的にはどのような点ですか？

日本共産党はあらゆるところに旗をもって登場しますが、彼らは決して職場やキャンパスでは姿を見せません。わたしたちがともに闘う戦闘的な労働組合・動労千葉の仲間は職場で労働者と討論し、ビラをまき、ストライキやデモに労働者を結集させます。しかし、共産党はほとんどやりません。彼らの議員は国会では雄弁ですが、職場の闘いには知らんぷりです。闘う意思も、この社会を本当に変革しようという思いももっていないのが日本共産党です。

## ◆ドイツには政治に関心をもつ人びとがたくさんいますが、そうした人たちにさえ、日本で今に至るまで活動的・戦闘的な左翼運動が闘われていることは知られていません。ドイツの労働者や学生が、そうしたキャンパスや職場での闘いを支援するためにできることはなんのでしょうか？

ドイツのみなさんもストライキを組織し、資本主義・帝国主義に対してともに闘いましょう！ 私たちと同じように生産点から革命的な労働運動・学生運動を甦らせるため、闘うことを訴えます。そのような国際連帯こそが最大の支援になります！

### 【出典】

○"Junge Welt" 記事（ドイツ語のみ、短縮版）

<https://www.jungewelt.de/2015/08-08/003.php?sstr=zengakuren>

○インタビューであるミヒヤエル・ストライトベルクさんのブログ  
（ドイツ語・英語、オリジナル版）

<http://tanukirepublic.net/2015/09/13/interview-ikuma-saito/>

★オリジナル版（全文）の和訳は全学連ウェブサイトに掲載しています♪

<http://www.zengakuren.jp/wp/?cat=11>

労働者・学生が団結して闘いにたちあがれば、世界をまるごと変革することができる！ 日々全世界でまきおこる闘いは、そのことをはっきりと示しています。この通信は、そうした闘いにスポットをあてるのみならず、実際の交流をも通して、日本での自分たち全学連の闘いの方向性を鮮明にし、大きな闘いをつくりあげるためのものです。留学生をはじめ、さまざまな大学の仲間とともにこの通信をつくってゆきたいと思います。投稿も随時募集しています！

安倍政権に対する国会決戦の爆発に引き続き、9月23日、韓国・民主労総の労働者たちが今年3回目となるゼネラルストライキにたちあがりました！

このゼネストは、パク・クネ政権による「労働市場改革」＝解雇自由化と労働者全体への賃下げ、「一生非正規職」攻撃への反撃として闘われました。



## 9・23 民主労総が5万人ゼネスト！

今や文字どおり「生きるか死ぬか」という状況下に叩きこまれている労働者の怒りは激しく、緊急の闘争にもかかわらず5万人以上が全国でストライキを決行。警察の暴力的弾圧をはね返し、街頭で闘いぬきました。

11月14日には「集まろうソウルへ！

行こう青瓦台へ！ ひっくり返そう世の中を！」をスローガンに、農民や露天商、学生などあらゆる人びとが民主労総とともにたちあがる「民衆総決起闘争」がよびかけられています。この闘いとかたく連帯し、「1%」の資本家の支配を覆して戦争を止めましょう！

## Join us, please!

### ☆みんなで作業しよう！（翻訳など）

闘いの報告や声明、資料などの翻訳・発信等に、ぜひご協力を！

### ☆学習会をはじめよう！

メンバーの問題意識にあわせて行っていけたらと考えています♪

ex. 世界各国での学生の闘い、入管問題など



発行：全学連（全日本学生自治会総連合）国際部

Tel：090-1845-7062（うちだ） / Mail：intl-solidarity@hotmail.co.jp

## 11・1 全国労働者総決起集会

11月1日（日）12時 日比谷野外音楽堂にて（終了後デモ）

★韓国、アメリカ、ドイツ、さらにトルコからも闘う労働者が